内リンパ水腫推定検査としての cVEMP チューニング特性テストの有用性

◎田泓 朋子[1)]、堀田 多恵子[1)]、久保和彦[2)]、中川尚志[3)]
国立大学法人 九州大学病院[1)]、千鳥橋病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科[2)]、九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科[3)]

【はじめに】
めまい疾患の病態の 1 つに内リンパ水腫があり、その有無を診断するために内リンパ水腫推定検査が行われる。われわれは本学会において 2020 年にフロセミド負荷 cVEMP の有用性を、2021 年にはグリセロールテストの有用性に関する検討について報告した。近年、Murofushi らは cVEMP を用いたより簡便な内リンパ水腫の判定法「cVEMP チューニング特性テスト」を考案し反復性めまい症例の内リンパ水腫の推定に応用できる可能性について報告した。今回われわれは当科で施行した cVEMP チューニング特性テストの結果をまとめて得た知見を報告する。

【対象と方法】
2021 年 10 月から 2023 年 9 月までに当科で cVEMP チューニング特定テストを行った 442 耳のうち、診断後の経過観察例、ノイズ混入などの評価困難例を除いた 362 耳を対象とした。Nueropack X1 MEB-2306（(株)日本光電工業）で、500Hz および 1000Hz tone burst 105dB で左右同時刺激し、頭部挙上により胸鎖乳突筋を緊張させて得られた各周波数の cVEMP p13-n23 振幅を Murofushi らが提唱する 500Hz-1000Hz cVEMP slope = 100 × (CA500－CA1000)/(CA500＋CA1000)より算出。slope＜－19.9%を内リンパ水腫陽性とし有用性を検討した。
(註 CA＝tone burst p13-n23 振幅)

【結果】
362 耳中、その後内リンパ水腫と診断された 131 耳のうち 76 耳 (58.0%)が本検査によって診断に至った。

【考察】
Murofushi らは片側性メニエール病確実例の陽性率を 60.5% (23/38)と報告しており、概ね同様の結果を得た。本検査は他の検査で異常が認められなかった症例で有用であった。薬剤投与が不要な上、比較的短時間で医師の手を要しないことは利点である。われわれは 2020 年に 60 歳以上では筋萎縮の影響で検出率が下がる可能性について言及した。被検者の年齢、疲労度などを見極めた適切な対応で精度をより向上させることが肝要である。

連絡先(092)642-5681